

令和4年度 留萌市地方創生協議会 議事概要

-
- 【日 時】 令和4年11月28日(月) 18:00~19:20
【場 所】 市役所3階 3・4号会室
【出席者】 委員：大石委員、榎波委員、池田委員、伊藤委員、松永委員、野呂委員、米倉委員、高橋委員
欠席：藤田委員、田中委員
市：中西市長、海野地域振興部長、真鍋政策調整課長、長谷川地域戦略担当参事、山下政策調整係長、佐藤ふるさと納税係長、高橋政策調整係主任

【主な内容】

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 市長あいさつ
- 4 議事
 - (1) 留萌市人口ビジョンの検証について [資料1]
 - (2) 第2期留萌市総合戦略 基本目標・KPIの検証について [資料2]
 - (3) モンベルアウトドアヴィレッジるもい構想(素案)について [資料3]
 - (4) 企業版ふるさと納税の取り組みについて [資料4]
- 5 意見交換
- 6 その他
- 7 閉会

【市長あいさつ】

- ・本協議会は国の方向性に沿ったかたちで行われている会議であるが、一番の問題は留萌地域における人口減少をいかに緩和していくかである。昨日(11/27)開催された令和4年度まちづくり懇談会の内容ともマッチングさせながら様々な施策を打っていく必要がある。
- ・魅力あるまちづくりを行い、関係・交流人口を増やしていきながら、最終的には移住定住者を増やしていきたい。
- ・市からの提案にたくさんのご意見をいただき、理解を得ながら地域の魅力を発信していきたい。

【留萌市人口ビジョンの検証について】

- ・資料1に基づき、人口ビジョン及び自然減・社会減、人口移動等について説明。

【第2期留萌市総合戦略 基本目標・KPIの検証について】

- ・資料2に基づき、第2期留萌市総合戦略の評価と各戦略の概要及び検証について説明。
-

【モンベルアウトドアヴィレッジるもい構想（素案）について】

・資料3に基づき、モンベルアウトドアヴィレッジるもい構想（素案）の内容について説明。

【企業版ふるさと納税の取り組みについて】

・資料4に基づき、企業版ふるさと納税の事業経過、受入実績等について説明。

【議事】

◇市長

それでは、意見交換に入る前に、只今の説明に対するご質問等があれば、お受けしたい。

○委員

社会減となっている現状に伴い地域の活力の維持は喫緊の課題である。対策していくうえで留萌地域の要因を分析・把握できているか。

◇地域振興部長

留萌市の特性として、自衛隊等の公務員の人口が一定数を占めている。社会減の多い年齢層が5歳～9歳と40歳～44歳となっている。転勤の際に、子どものいる世帯が家族連れで転出をしていき、転入者には単身赴任者等の単独世帯が多いと考えられる。また、近年顕著に転出が増えてきているのが60歳以上である。これは以前は見られなかった傾向である。高齢者の住みやすさに繋がる医療や除雪等の充実を求めて都市部に転出していると考えられる。

◇市長

留萌の自衛隊の隊員数自体はこの3年で50人程増えているが、転勤により家族を含めて100人程度転出していっている。やはり、子どものいる世帯が転出し、単身で転入してくる場合が多いということがわかる。これは国や道の機関の公務員でも同様と考えられる。子どものいる世帯が住みやすい環境づくりが必要であり、教育の分野でいうと、高校生に一人一台タブレット端末を貸与し、教育環境を高めることに着手している。公務員の中でも一番人数の多い自衛隊に関しては、託児所の設置などについても防衛相に要望を出している。子どもたちが18歳までは家族と一緒に住んでもらえるような環境づくりをしていきたい。

高齢者の転出についてはこの3年間のコロナ禍も関係している。また、高齢者の除雪問題に対しては新たな施策を打っていきたい。

○委員

やはり教育や医療に特化して取り組んでいかななくては人口減少のペースは緩んでいかないと。また、人口が減少していても活力のある地域にしておくためには、スキルのある人材を育てていくことが必要ではないか。モンベルアウトドアヴィレッジるもい構想によりアウトドアに特化するにあたって、人材育成を含めて留萌ならではの魅力を発掘した取り組みに期待するとともに、市民にも恩恵のある取り組みであってほしい。

【意見交換】

◇市長

ただいま質問と意見あわせてご発言いただいたので、このまま質問を含めた意見交換ということで進めたい。

○委員

参考資料の人口ビジョンの項目に、2040年14,678人との記載があるが、これは確保している目標値ということで良いか。

◇地域振興部長

これは留萌市独自に割り出した目標値である。現在の留萌市の出生率が1.61であるが、これを北海道が目標として示している2030年までに1.80、2040年までに2.07に引き上げられた前提での目標値となっている。非常に厳しい数値となっているが、なんとか引き上げていける取り組みをしていきたいと考えている。

○委員

現在、留萌市の全小中学校でAIドリル『キュビナ』が導入され、それを家庭学習や授業の復習に活用できている。また、中学生の英語検定の受験料に対して半額補助という支援もしていただき非常にありがたい。先ほど市長から、高校生一人ひとりにもタブレット端末を貸与しているというお話もあった。市の教育委員会は本来小中学校が所管であるが、留萌高校へのバックアップまで業務の幅を広げている。そこで、月に一回行われている校長会（教育委員会と市内小中学校の共催）に、留萌高校の校長にも参加してもらい、情報共有を図っていききたいという旨を教育委員会に提案したところである。留萌高校の校長に提案した際には、ぜひ参加したいとの返答であった。オブザーバーとしての参加等を検討していただいて、市と小中高校の教育推進に関する連携強化の場にしていきたい。

○委員

それはぜひ実現していただきたい。高校側は市教委と小中学校の先生に対して距離感を感じることがあるので、情報交換できる場があるのは良い。なるべく早く実現していただきたい。

◇市長

この提案に同意する。市でも幼児教育から高校教育までの連携の必要性を感じており、今年度から新たに教育政策課を設置した。本件については教育委員会に状況を確認し、進めるように伝えたい。

○委員

留萌高校が魅力的になることが、子どもたちが高校までは留萌に住みたいという気持ちに繋がる。現在港南中学校の3年生では、大学進学を見据えて札幌、旭川の高校へ進学を検討している生徒が3名いる。留萌中学校にも同様な生徒がいる。学習意欲の高い生徒が留萌高校に進学し、そこから希望する大学に合格できるという結果を残せば、良い影響が広がると思う。

◇市長

港南中学校と留萌中学校に行った調査では、昨年は17名、今年は20名の生徒が学力やスポーツの指導力を求めて市外への進学を希望しており、年々増えてきている。生徒数が減ると教員の数も減らされ、学力等を維持することが難しくなってくるので、中学生に対して留萌高校をアピールすることの続け、生徒数の確保に努めたい。子どもが留萌高校へ進学することで親の負担も少なくなるため、留萌にいても学べるという教育環境の整備を進めていきたい。

○委員

道が目標として示している出生率の数値について補足説明したい。出生率に関しては道も国も同じ考え方で示している。2030年の1.80という数値は、若者に対する調査で、諸条件が整っていれば子どもを1.80人希望するという結果からきている。2030年までに環境を整えていき、希望を叶えられれば出生率が1.80となるだろうと見込んだ数値である。2040年の2.07という数値は、人口が減らない出生率である。先の目標とはなるが、若者の希望を叶えるため、そして人口を維持していくために環境を整えていく、施策をうっていく主旨で立てられた目標値である。

◇市長

整えていくべき環境の一つに所得の向上があると思う。自衛隊に聞いた話によると、南西に行くほど手当が高くなり、北に行くほど安くなるそうだ。暖房費や燃料費が高騰する中で、手当も安いとなると転勤地としては選ばれづらい要因となる。そういった点も今後国への要望内容に検討していきたい。

○委員

以前市との情報交換会の際に、卓球によるまちづくりの取り組みで地方から留萌市に来た子どもたちの住む場所が無いという話題が出たが、そこに関する進捗状況を知りたい。

◇地域戦略担当参事

建物、そして寮母を務める人材について、各方面に打診し検討していただいているが、まだ決まっていない。

○委員

住む場所が確保できていないというハードルは高いと思うが、それでも子どもたちが来てくれる道筋はあるのか。

◇地域戦略担当参事

ぜひ松下コーチから指導を受けたいと、日高や根室から視察に来ている方がいる。民間企業の力も借りながら、いち早く建物と寮母を確保できるように進めている。寮を作るということは、卓球の越境学生に限らず、地方から留萌高校への進学を選択できる学生を増やすためにも必要な取り組みである。

○委員

港南中学校には現在2名、卓球のために地方から越境してきている学生がいる。生徒が増えれば教員の定数も増やせるため、これからも積極的に受け入れていきたいので、市の取り組みに期待している。

○委員

元のゴルフ場の跡地について、活用する予定はあるか。

◇市長

自衛隊の演習場として活用できないかという話が挙がっている。風力発電の企業から活用できないかという話もあったが、資材を搬入する道路がないため難しいとなった。現在留萌の演習場はマサリベツにあり、今年は一泊でも演習が行われ有効活用できたという実績がある。今後ゴルフ場跡地も含め大々的に国有地として活用してもらえるように要望をかけている。

○委員

ロケーションの良い土地なので、他にも活用できる道があるのではないか。

○委員

今年留萌管内のアクティブシニア層への支援調査が行っているのだが、60歳～75歳の層はとても意欲があるのに対して地域で活躍できる場が少なく、マッチングできていないと感じた。有償・無償問わず社会参画したいという方は常に一定数いるので、そういう方々が活躍できる場を作る取り組みに期待したい。

◇市長

その調査では、具体的にどのような声があったか。

○委員

具体的にやりたいことを持っている方もいるが、何かやってみたいがどうしたらよいかわからないという声もあった。まだまだ生産人口として活躍できる方が多いと感じるので、どこかが窓口となってマッチングできれば良いと思う。

◇市長

市としてもそういった調査を試みる必要があると思う。今後も気がついたことがあれば担当を通じてお話をさせていただきたい。

本日は貴重なお時間をいただきまして誠にありがとうございます。以上をもちまして令和4年度の地方創生協議会を終了させていただきます。